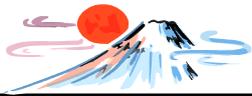




三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより1月号
令和2年1月7日 発行
<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>



2020年の幕開け



あけまして おめでとうございます。

保護者並びに地域の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、本校教育の充実に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催の年です。大会本番に向けた準備もいよいよ大詰めです。日本での開催は、夏季・冬季合わせて4回目で、冬季の長野大会からは22年、1964年（昭和39年）開催の東京大会からは56年目の開催となります。オリンピック・パラリンピックは4年ごとに開催されますが、やはり日本での開催というのは特別ですから、ぜひ教育にも活かしたいと思えます。

スポーツ庁に設置されたオリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議では、その最終報告書においてオリンピック・パラリンピック教育の内容を次の2点に分類しています。

1点目は、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」です。オリンピック・パラリンピックの理念や歴史、ボランティアを含めた、大会を支える仕組みなどがこれにあたります。また、大会開催中は、選手のエピソードや競技での場面が連日報道されます。その中には、子どもたちの感性を揺さぶるものもたくさんあるのではないのでしょうか。

2点目は、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」です。オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツに対する興味・関心を高め、得意・不得意ではなく、スポーツを楽しもうとする心を育成したいと思えます。また、チャレンジや努力を尊ぶ態度、フェアプレーの精神、他者の尊重などを学ぶ機会にもなります。誰もが自分らしく生きることや、共に生きる共生社会の実現について考えることもできます。さらに、日本の伝統や文化のすばらしさに誇りを持ったり、世界の文化を理解し多様性を尊重したりすることは、グローバルな時代に生きる子どもたちにとってとても大切なことだと思えます。

このように、オリンピック・パラリンピックが自国で開催されることの強みを教育活動に活かし、子どもたちの健やかな成長につなげていく年にしたいと思えます。

3学期は、子どもたちにとって次のステージ（進級・進学）への心構えをしっかりとつくる学期となります。子どもたちが夢や希望を持ち、その実現に向けて生き生きと学ぶことのできる学校を目指して、教職員一同決意を新たに力を尽くしてまいります。

保護者・地域の皆様には、引き続きお力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。



校長 小島 みどり
教職 員 一 同

私は、人権集会から思ったことが二つあります。一つ目は、相手も自分も大切にすることばかりです。相手のことばかり考えて自分らしさを失うのはだめだし、自分のことしか考えていなくて相手を傷つけるのはだめだと思いました。二つ目は、一人一人いいところがあるということ。私も「ああだめや」といやなところばかり見つけてしまっているけれど、集会のお話で「みんなちがってみんないい」ということを思いました。（中略）私は今まで、断つたら嫌われるかもとか、「お願い。」と言われて本当はいやなのに「いいよ。」と言ってしまったたりする時があったから、自分の気持ちも相手の気持ちも考えられる人になりたいと思いました。

自分も相手も大切に

十二月の人権旬間に書いた、五年生の作文を紹介します。だれもが自分らしく幸せに生きるために大切なことをしっかり考えています。

